

コラム

招聘研究員レポート

名前	所属	招聘期間
セリーヌ・ズレッティ	フランス国立高等研究院 東アジア文明研究センター	2018年10月 1日 ~ 2018年10月20日
劉 洋	中山大學 中国非物質文化遺産研究中心	2018年10月 9日 ~ 2018年10月29日
王 躍	華東師範大學 中国非物質文化遺産保護研究中心	2018年11月 5日 ~ 2018年11月25日
高 志明	北京師範大學 民間文学研究所	2018年12月 3日 ~ 2018年12月22日
アナ クリスチーナ ヨコヤマ	サンパウロ大學 日本文化研究所	2019年 1月15日 ~ 2019年 2月 4日
Kim Sung-Eun	ブリティッシュ・コロンビア大學 アジア学科	2019年 1月21日 ~ 2019年 1月31日

## 幕末期の本州に設けられた 反射炉の探訪

セリーヌ・ズレッティ  
(フランス国立高等研究院)



私はセリーヌ・ズレッティと言い、かつてはステンドグラス作家として活動していました。2007年に日本語を学ぶことを決め、現在はフランスのパリ・デイドロ大学で技術史・日本研究の博士候補生として学び、3年目に入っています。そのため、コレージュ・ド・フランスの東アジア文明研究センター（CRCAO）にも所属しています。

私の博士論文の題名は『薩摩藩の集成館——明治日本の産業革命の夜明けにおける初期の産業化の一例』です。これは技術史と世界史の両方の視点から明治の産業革命のルーツを探求するものです。

私の博士論文の主題は、集成館と呼ばれる19世紀半ばの工場や工業事業の複合施設（集成館事業）です。軍事・経済の両分野で西洋諸国に対抗するために1851年に建設された集成館は、西洋式の産業集合施設としては初期のもので、日本の九州の南端の薩摩藩（現在の鹿児島市）に建てられました。国連教育科学文化機関（ユネスコ）は2015年に集成館事業を含む「明治日本の産業革命遺産—製鉄・製鋼、造船、石炭産業」を世界文化遺産に登録しました。

神奈川大学非文字資料研究センターによって提供された奨学金のおかげで、私は2018年10月に3週間にわたって日本に滞在し、博士論文の主題についてリサーチを行うことができました。神奈川には2週間ほど滞在し、神奈川大学の図書館でリサーチを行い、横浜のいくつかの博物館で開催されていた展示会で横浜開港にかかわる豊富な資料を見ることができました。日本滞在中

間の中ごろ、「明治日本の産業革命遺産」に含まれる史跡や博物館がある本州の二つの場所へ調査旅行に行きました。この旅行で私は資料を集め、江戸時代末期の日本が西洋から技術的知識を取得し、これを日本で応用した過程について理解を深めることができました。

私の目的は、幕末期に建てられた反射炉が現存する山口県萩市と伊豆半島の韮山の史跡を訪ね、この二つを比較することで

まずは薩摩の集成館と同じところに建てられた反射炉を見学するため、萩市へ行きました。実際に行ってみ

ると、市内には他にも興味ある場所がたくさんありました。私は萩に2日間滞在し、自転車をレンタルして、歴史博物館と、長州藩校として設立された明倫館の跡地にある世界遺産に関する博物館を訪れました。そこでは私が研究している時期の地域の歴史をさまざまな側面からとりあげた興味深い書物をいくつか見つけ、蒸気機関や



反射炉／萩市／セリーヌ・ズレッティ



銃の鑄造所／萩市／セリーヌ・ズレットイ

銃、機関車の模型などを見ることができました。また、恵美須ヶ鼻造船所と大砲の鑄造所を訪れたことは非常に勉強になり、西洋から日本への技術的知識の移転と、<sup>たたら</sup>踏鞴吹き<sup>の</sup>技術で銃を鑄造するなどのハイブリッド技術の重

要な例を見つけました。最後に松下村塾を訪れました。長州藩で進められた西洋式事業のほとんどはここで準備され、長州藩の侍に教えられました。

神奈川に戻る途中、葦山にある葦山反射炉を見るため、伊豆半島で1日過ごしました。反射炉のそばに建てられた博物館には非常に興味深い展示があり、江戸時代の日本の防衛に使用する銃を鑄造する技術的事業のさまざまな側面を明らかにしていました。博物館の職員は親切に相談にのってくださり、この時代に関心があるのな

ら、葦山反射炉の建設に寄与した江川英龍が暮らしていた江川邸を訪れるといいと勧めてくださいました。タクシーで行った江川邸は世界遺産には含まれていませんが、江川英龍が弟子たちとここで行った西洋科学の研究についての興味深い資料がありました。



反射炉／葦山／セリーヌ・ズレットイ

この3週間の滞在は、私の研究にとって非常に貴重なものとなりました。幕末期に他の藩ではどのように西洋科学の研究が行われていたかを知ることができたおかげで、新たな視点から集成館について研究することができました。また、ただちに研究に役立てられる資料を見つけました。特に参考になったのは、長崎で作られたと考えられている模型で、蒸気機関や銃の仕組みを説明するために当時使用されていたものです。

## 日本の無形文化財の保護と伝承の初体験記



劉 洋  
(中山大学)

2018年10月9日から29日まで、幸運なことに訪問研究員として神奈川大学非文字資料研究センターを訪れ、21日間の研究活動を行いました。日本での勉強と研究生活は、私の見聞を増やし、視野を広げてくれました。多分、あちこち赴いて見て回ることは、つまり、「他山の石以て玉を攻むべし」、きっとこれは我々を向上させてくれる良い方法なのでしょう。

せっかくの機会ですので、神奈川大学日本常民文化研究所と非文字資料研究センターの学術資源を大いに利用させてもらい、多くの資料を調べました。また、第70回日本民俗学会にも参加し、中国および外国の専門家の方々の独自のまとまりを持つ正確で明快な考えを

聞くことができ、視野を広げると同時に自分自身の研究の焦点が固まりました。

非物質文化遺産専攻の学生ですので、来日前に指導教員の小熊先生と連絡を取り、日本の無形文化財の保護と伝承の状況を調べたいと伝えました。先生と真剣



相模原市教育委員会  
文化財保護課主任 長澤有史氏と。